

第2回 長良川遊水地河川環境調査検討会 議事要旨

日時：令和4年9月29日（木）14:00～15:00

場所：じゅうろくプラザ 5階会議室

出席者 藤田 裕一郎 岐阜大学名誉教授（委員長）
西條 好迪 （一財）自然学総合研究所理事長
森 誠一 岐阜協立大学教授

【議題】

長良川遊水地（横越地区・池尻地区）の整備に係る動植物の保全対策について

- ・横越地区、池尻地区の生態的な機能と影響範囲について
- ・保全対象種の選定について
- ・保全対象種の移植先について
- ・移植対象種の事前調査について

【主な意見】

- 横越地区は、オオサンショウウオやネコギギの生息にとって重要度が高いのではないかと考えられるため、長良川中流域の広範囲で行われた過去の現地調査について、確認種の分布の粗密を把握できているかどうかを知りたい。
→調査時に個体数も含めて記録しているため、事務局で資料を整理し共有する。なお、共有は貴重種保護の観点より各委員に対してのみ行うこととしたい。
- 遊水地事業が動植物の保全に配慮して行われることは、中部圏においては画期的と認識し、期待している。他方、移植することに力点が置かれすぎている。事業による環境負荷を前提としつつも同時並行で環境創出の検討も必要である。
→治水と環境の両立は大きな検討課題と認識している。今後遊水地の詳細設計を行う中でしっかり検討していきたい。

【その他いただいた意見】

（横越地区、池尻地区の生態的な機能と影響範囲について）

- ・「事業箇所及び周辺を含めた環境調査・対策手法の検討」とある「周辺」に極めて重要な意味が込められていると理解している。調査結果に応じて柔軟に対応することが重要なポイントである。
- ・「濁水等の間接的な影響を…」と記述されており、「等」に含まれるかも知れないが、ネコギギやオオサンショウウオにとっては、濁水よりも土砂移動による空隙部の埋没が深

刻な影響であるため、土砂移動を「間接的な影響」に加える、もしくは脚注に示すなどの反映をお願いしたい。

→事務局でも土砂移動は「等」に含まれると認識しているが、事務局にて資料に追記することとしたい。

・資料では横越地区の中州を陸上域と表現しているが、中州は洪水時に水没するため、洪水時の水生生物の避難場として機能する場であることを認識すべきである。

→ご指摘の通りである。資料にも追記することとしたい。

(保全対象種の選定について)

意見なし

(保全対象種の移植先について)

・移植先の生息密度があまりに高い場合、そこに移植をしてしまうと元々生息していた個体との間で競合する可能性が考えられるため、移植先の検討にあたっては、予め移植先の生息密度を確認しておくことが重要。

(移植対象種の事前調査について)

意見なし

(その他)

・植生遷移の過程で生じる課題であるが、横越地区の中州において更に樹林化が進行すれば、水生生物の避難場の役割を果たすというメリットが供される反面、流下物を阻害することにもつながることに留意されたい。

・横越地区は河道掘削により河原が広く出現すると思われる。そうしたところには、在来の河原植物が広く生育するよう配慮されたい。

・横越地区の左岸は、現状が空隙の多い水際であり、水生動物にとって重要な環境である。左岸堤防の老朽化対策時により良い環境を創出できるよう配慮されたい。

・横越地区左岸堤防老朽化対策としての堤防強化に際しては、多自然川づくりの手法も取り入れ、堤防の強靱化と共に、環境面での強靱化、生物多様性を担保できるような工法を模索すべきであると思う。

・横越地区の環境面から、内川の残存方法等について、たとえば内川の上流部と下流部に水域を設けたり、水を流してみたりといった検討を行っていただきたい。

・池尻地区においては、遊水地内に余剰地があれば、ビオトープを設置し、地元の方々が水生生物や水と親しむような場を創出できないか検討いただきたい。

・水域に影響が及ぶ整備を極力短期間で行うなどして、重要種等が影響を受ける期間も短くなるように、施工計画において検討していただきたい。

→治水と環境の両立は大きな検討課題と認識している。今後遊水地の詳細設計を行う中でしっかり検討していきたい。

以上